

第2章 目指すべき都市像

1 都市計画の基本理念

入善町総合計画においては、3つの基本理念を設定しており、これらは都市づくり上でも重要な視点として捉えられることから、本計画においてもこれらを都市計画の基本理念として踏襲するものとします。

都市計画の基本理念

- ・先人から受け継いだ貴重な財産を「いかす」ことにより、豊かな自然環境や産業基盤を築き、うるおいあるまちづくりを目指します。
- ・うるおいある生活の中で、健康で快適に安心して暮らせる生活基盤を「つくる」ことにより、生涯暮らしたいと思う豊かなまちづくりを目指します。
- ・豊かな生活の中で、心豊かな人を育み、みんなが協力して地域を「になう」ことにより、将来にわたり元気なまちづくりを目指します。



2 将来都市像

2-1 都市計画の将来像

都市計画の基本理念を実現するため、入善町の都市計画の将来像を次のように定めます。

〔将来像〕

扇状地の水と恵みを活かし うるおい・豊かさ・にぎわいを感じるまち 入善

< 都市計画の将来像の考え方 >

- ・入善町総合計画における将来像、都市計画の基本理念を踏まえつつ、都市計画の視点から将来像を設定します。
- ・「扇状地の水と恵み」とは、入善町の自然、歴史・文化、人々の営みによって、これまで受け継がれてきた水をはじめとする地域の財産が扇状地に多数有していることを意味し、この地域財産をまちづくりに活用することです。
- ・「うるおい」とは、都市計画の基本理念に示す、豊かな自然環境や産業基盤を築き、うるおいあるまちづくりを目指すことを意味します。
- ・「豊かさ」とは、都市計画の基本理念に示す、健康で快適に安心して暮らせる生活基盤をつくることにより、生涯暮らしたいと思う豊かなまちづくりを目指すことを意味します。
- ・「にぎわい」とは、都市計画の基本理念に示す、心豊かな人を育み、みんなが協力して地域をになうことにより、将来にわたり元気なまちづくりを目指すことを意味します。

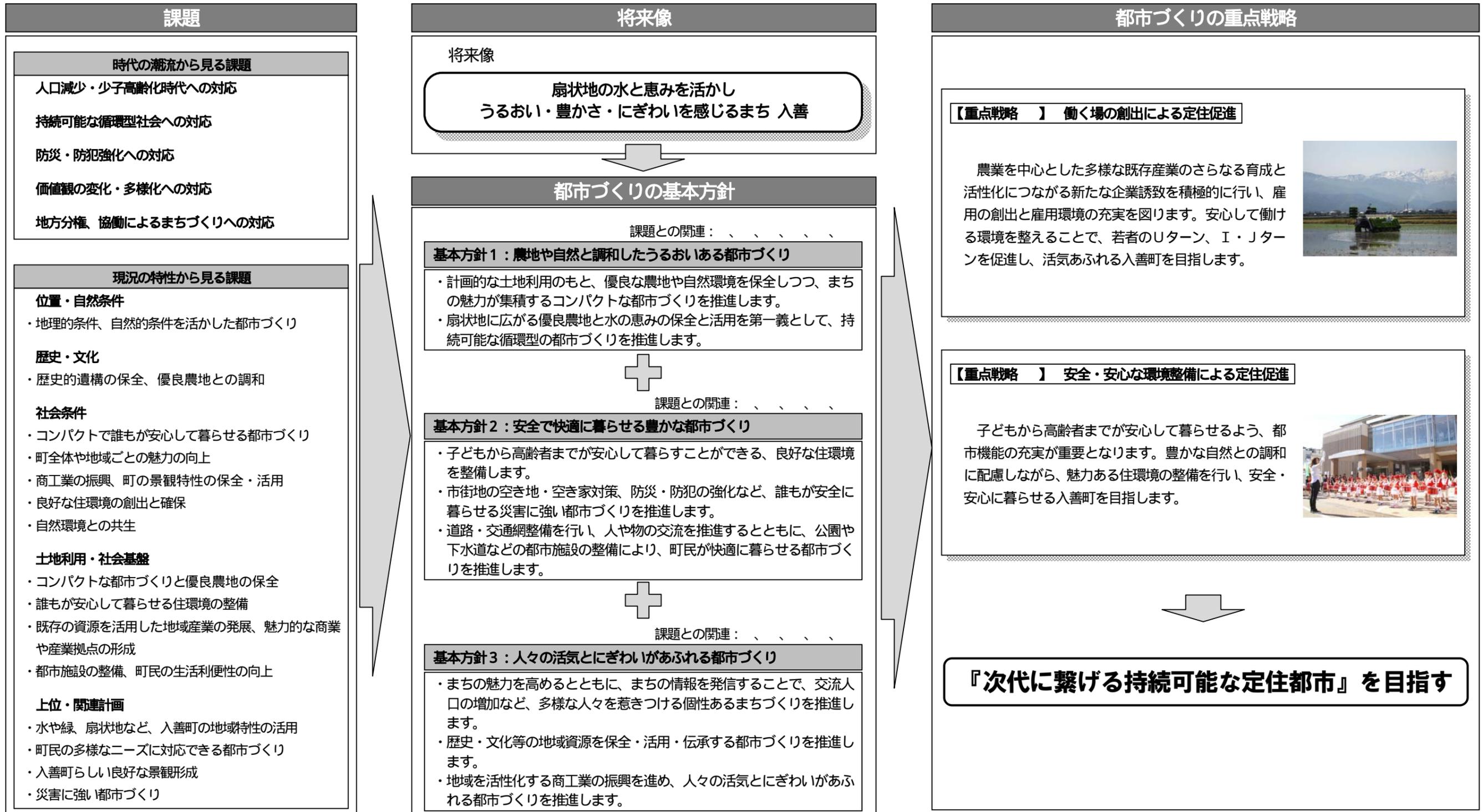
2-2 将来人口

都市計画マスタープランでは、おおむね20年後（平成42年度）の都市の姿を展望しつつ、10年後（平成32年度）の将来人口を設定するものとします。

将来人口については、入善町の総人口が減少傾向にある中、土地区画整理事業や新たな宅地基盤整備をはじめ、豊かな自然環境、景観の保全、身近な公園の充実等による定住促進の環境整備、必要に応じた工業地の確保、商店街の活性化等による就業機会の創出等、流出入口の抑制と流入人口の増大に資する施策展開を図ることにより、平成32年度の総人口を27,000人と設定します。

2-3 都市づくりの基本方針及び重点戦略

入善町の課題への対応、また、入善町総合計画、入善都市計画区域マスタープラン等上位関連計画との整合を念頭に、将来像の実現に向けた「都市づくりの基本方針」、さらに、都市づくりを進める上で、特に重要となる「都市づくりの重点戦略」を次に掲げます。

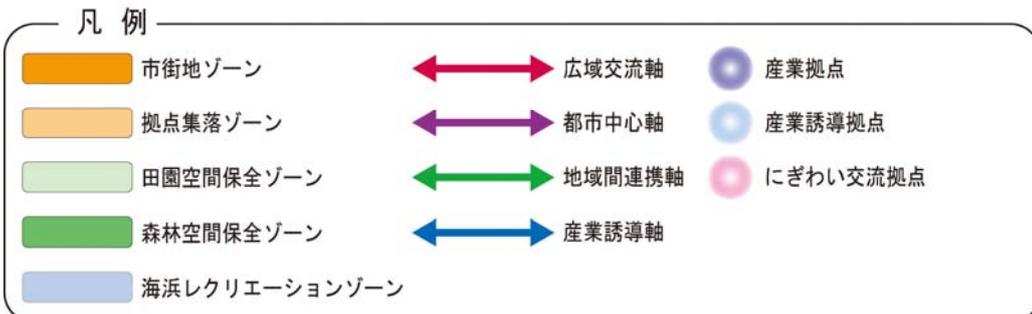
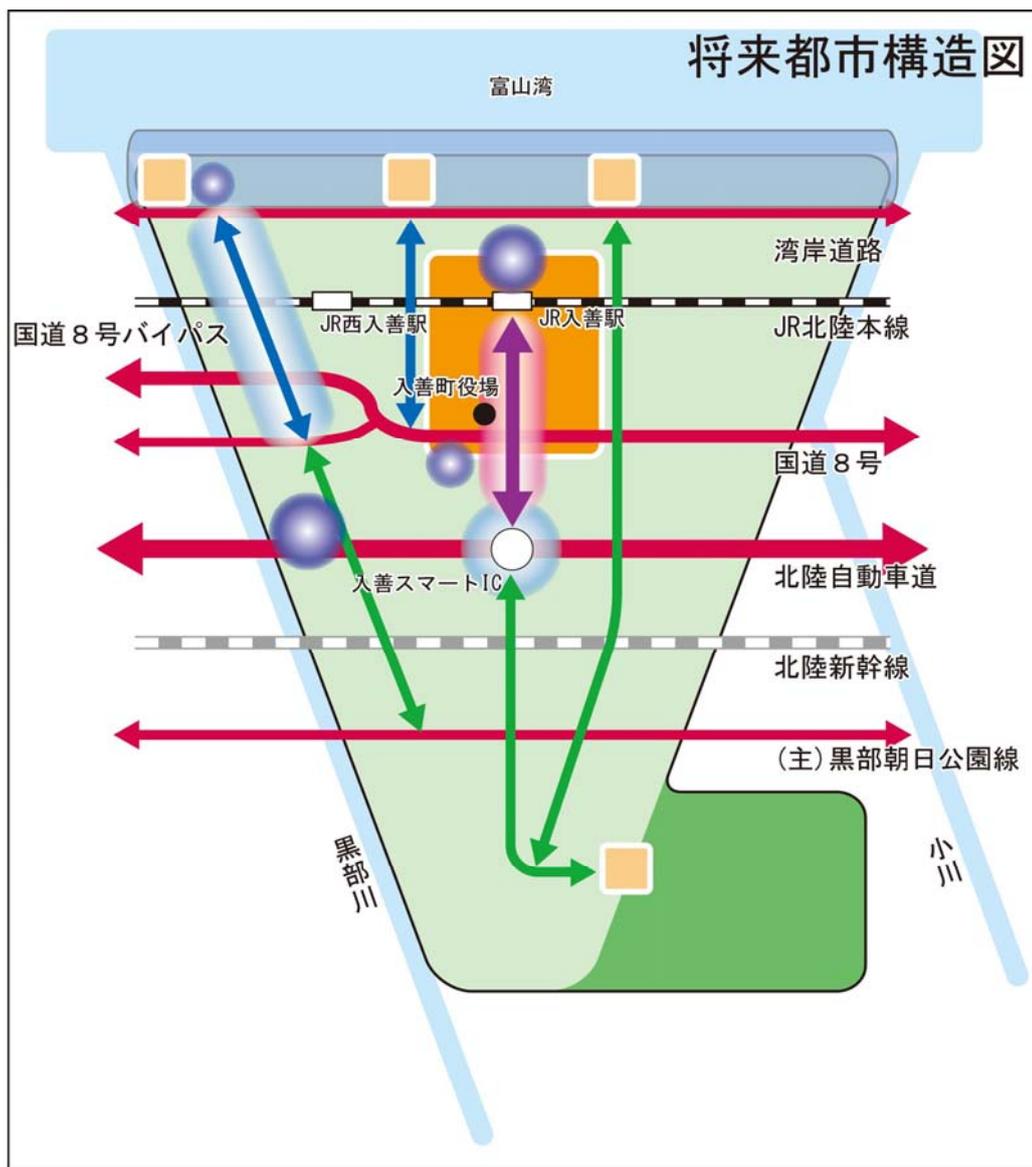


上記の基本方針及び重点戦略に基づき設定した将来都市構造を次ページに示す。

2-4 将来都市構造

将来都市構造は、将来像である「扇状地の水と恵みを活かし うるおい・豊かさ・にぎわいを感じるまち 入善」の実現に向けた取り組みを進めるため、本町の空間的な配置や主要な道路を概念的に捉え、将来の都市の姿を表現するものです。

将来都市構造の構成要素として、自然・地形的特性をベースに都市構造の骨格を成す「ゾーン」、広域的な連携・交流を形成・強化する交通ネットワークによる「軸」、現況の土地利用をベースに将来ニーズを見込んで集積を図る「拠点」を設定します。



将来都市構造の概要

□市街地ゾーン

JR 入善駅周辺を核として広がる入善町の中心部を「市街地ゾーン」とします。

町内外の人々が交流する入善町の中心地であり、まちの魅力や求心力を高めるとともに、周辺の田園空間と調和したコンパクトな市街地形成を目指します。



□拠点集落ゾーン

海・山側の拠点集落を「拠点集落ゾーン」とします。

建築形態規制適用地区に指定されている集落部であり、良好な住環境の保全、周辺の自然環境と調和した良好な集落景観の保全を目指します。

□田園空間保全ゾーン

扇状地に広がる農地及び散居集落を「田園空間保全ゾーン」とします。

生産活動の場となる農地と特徴的な散居集落が調和したゾーンであり、農業環境と居住環境のバランスのとれた空間形成、扇状地の豊かな水資源や緑の保全を目指します。



□森林空間保全ゾーン

入善町の南東部に位置する山地を「森林空間保全ゾーン」とします。

良好な森林空間を形成するとともに、豊かな水資源を生み出すゾーンであり、これら自然環境を保全するとともに、自然を体験する空間などとしての活用を目指します。

□海浜レクリエーションゾーン

海岸に面する一帯を「海浜レクリエーションゾーン」とします。

自然・文化・観光資源が集積するゾーンであり、これら資源の有効活用と良好な海岸景観や水資源などの保全、既存集落との調和を目指します。



□広域交流軸

北陸自動車道、国道8号及び国道8号バイパス、(主)黒部朝日公園線、湾岸道路を「広域交流軸」とします。

広域的な交流の促進、また、産業・観光振興を推進するために重要な役割を担う軸であり、新幹線開業によるアクセス機能の強化、適正な沿道利用を目指します。

□都市中心軸

入善町の玄関口である、JR入善駅から北陸自動車道入善スマートICに至る区間を「都市中心軸」とします。

都市空間を形成する重要な軸であり、「広域交流軸」などとの連携、隣接する公共施設などへのアクセス性の向上、道路機能の強化を推進するとともに、まちの顔となる沿道空間の充実、にぎわいの創出を目指します。

□地域間連携軸

北陸自動車道入善スマートICと山沿いの拠点集落を結ぶ道路、市街地東の外縁を通り、海岸線・山沿いの拠点集落に連絡する道路、黒部川に沿って国道8号と(主)黒部朝日公園線を連絡する道路を「地域間連携軸」とします。

町内における主要なネットワークの軸であり、広域交流軸などとの連携により、地域間交流の促進、集落部における生活利便性の向上を推進します。

□産業誘導軸

平曾川国道線、市街地西の外縁を通り国道8号と海側の拠点集落を連絡する(都)上野吉原線を「産業誘導軸」とします。

交通の利便性が高い軸であるとともに、黒部川沿い及び市街地の既存工業地や、黒部市の既存工業地とのアクセス性の良い軸であり、適正な沿道利用のもと、新たな産業の立地を誘導します。

□産業拠点

JR入善駅北側、国道8号沿道、黒部川右岸などの既存工業施設が立地する場所を「産業拠点」とします。

産業の活性化を促す拠点であり、周辺環境と調和した良好な工業地の形成と、さらなる産業の発展を目指します。

□産業誘導拠点

交通の利便性が高い黒部川沿いの「産業誘導軸」沿道、北陸自動車道入善スマート IC 周辺を「産業誘導拠点」とします。

新たな産業の立地を誘導する拠点であり、「産業誘導軸」沿道においては、交通の利便性、入善町や黒部市の既存工業地とのアクセス性、「北陸自動車道入善スマート IC」周辺においては、広域連携、市街地とのアクセス性を活かしながら、農業・水産業の活性化につながる産業等の立地を誘導します。

□にぎわい交流拠点

入善町の玄関口となる JR 入善駅から北陸自動車道入善スマート IC までの「都市中心軸」沿道を「にぎわい交流拠点」とします。

国道 8 号以北は都市・交流機能が集積する拠点であり、商業・業務機能の集積などにより、町内外の人々の交流や生活の利便性の向上を目指します。

国道 8 号以南は新たに都市・交流機能を集積する拠点であり、健康交流プラザ等の公共施設、水の小径のせせらぎなどを活かしながら、町内外の人々の交流とにぎわいを創造するとともに、市街地へと導くシンボルロードの形成を目指します。

